

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 安倍銃撃事件の教訓

総理大臣経験者が選挙演説中に手製銃により銃撃され死亡する事件が起きました。「水と安全はタダ」と言われてきた日本で、すでに飲み水は買うものとして定着しましたが、安全に関しては「まだまだ大丈夫」と高を括ってきた感があります。

まず日本では銃犯罪はないとする「油断」です。昭和のヤクザ映画や刑事ドラマによくある街中の銃撃戦を一般市民ならばフィクションの世界の話と思いついても許されますが、当の政治家も警護担当者もその程度の認識であったことが問題です。

もう一つは「もしもの時の備えがない」ことです。元総理を取り囲むように警護が突っ立っていたものの、銃撃であれ、ナイフであれ、投石、暴力行為であれ、負傷者が出たときの備えが皆無でした。今回の事態では最悪を織り込んだ準備は全く出来ていませんでした。

今回の銃撃事件の結末を「平和ボケ」などと結論づけては得られるものではありません。日本周辺で騒がしい安全保障の場面において、前述の「油断」「もしもの時の備えがない」状況が存在しないのか心配でなりません。

命を狙われる存在だ、と緊張することのない者と、命の危険と隣り合わせの緊張の中で権力闘争をくり抜けてきた指導者が同じテーブルで外交交渉をする現実の厳しさを考えれば、生ぬるくも厳しいこの国の現実を感じずにはられません。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。当社では毎年たくさんの高卒生を迎え入れております。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通じて彼ら、彼女らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、生徒様に当社のことをご紹介ください。

松本 隆一郎